

事業所職員向け

児童発達支援自己評価表

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	8		
	2 職員の配置数は適切であるか	7	1	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	7	1	・スロープを設置しバギーが通りやすいよう環境を整えている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	8		・マットスペースとフローリングスペースで活動内容を変更している。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	6	2	・月1回ミーティングを行い意見を出し合い支援の振り返りや目標について話し合いを行っている。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	8		・保護者からの評価等をミーティングや朝礼、終礼時に職員に伝え改善に繋げている。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	8		
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか			・定期的にいろいろな内容の研修を案内している。 また職員自らが受けた研修を申し出て受けてもらえるような仕組みを取り入れている。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	6	2	・計画作成職員だけでなく全職員でのカンファレンスも行っている。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	4	4	・アセスメントツールの把握していない職員が多数いるためアセスメントツールについて全職員で確認を行う。
	11 個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	6	2	・面談や他教室、他事業所と連携をとり利用児に必要な支援や具体的な内容を設定している。
	12 個別支援計画に沿った支援が行われているか	7	1	
	13 活動プログラムの立案をチームで行っているか	5	3	・保育士、リハビリ職員で立案を行う事が多いがNSを交えて立案を行うとより安全でよい支援が行えるようになるためNSも積極的に立案に参加していく。
	14 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	7	1	・季節や天候により活動内容を決めている。
	15 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成しているか	6	2	
	16 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	6	2	・前日の終礼や当日の朝礼時に打ち合わせや内容を伝え確認している。
	17 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	7	1	・業務終了前に必ず終礼を行いその日の振り返りを行い意見交換し共有している 当日出勤していない職員にも連絡ノートを活用し情報が伝わるように工夫している
	18 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6	2	
	19 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	6	2	・6か月に一度のモニタリングを行っており評価、見直しを行っている。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	8		
	21	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	4	4	
	22	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	6	2	・地域の保育園と月1回の交流会を開催している。利用児にもよい刺激となっている。だいたい同じ曜日に交流会が開催されているため参加できる利用児に限られている。保育園と連携しいろんな曜日で開催し利用児が幅広く交流会に参加出来るよう調整したい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	5	3	・医療機関、主治医名を保護者に定期的に確認し分かりやすいようにカルテの一番前に入れている。 ・医療機関、主治医との直接的な関わりは持っていない。事前に医療機関、主治医と連絡をとり緊急時に備えられるような体制を整える
	24	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	6	2	
	25	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	5	3	
	26	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	3	5	
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	6	2	・送迎時や電話、メール等で保護者との連絡を密に取るよう心掛けている。
	28	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っているか	1	7	・子供の行動変容を目的とし保護者がほめ方や指示などの療育スキルを獲得する事を目的としているペアレントトレーニングは重症児の保護者の方に行うのは難しいところがあるが利用児さんの対応について保護者と相談したり助言を行う事はある。ペアレントトレーニングを行うためには職員がペアレントトレーニングについて正しく学ぶ必要がある。
保護者への説明責任等	29	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	7	1	
	30	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	7	1	
	31	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	6	2	・2回個別面談を行い相談、助言を行っている
	32	保護者同士の連携を支援しているか	5	3	
	33	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	7	1	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	8		・定期的にお便りを発行しているが、それ以外でお伝えしたいことがある時は文面やメールでお伝えするよう工夫している
	35	個人情報の取扱いに十分注意しているか	8		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7	1	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	2	5	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	7	1	・いろいろな場面を想定しシミュレーションを行っている。 ・防災訓練等は実施した際はお便りを活用し保護者に周知してもらえるよう工夫している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	8		
	40	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	8		
	41	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	7	1	
	42	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	6	2	
	43	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	6	2	
	44	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	7	1	